

院内がん登録

がんセンター 越 智 恵

2014年分の「院内がん登録」の集計と分析を行いましたので、その結果をご報告いたします。

院内がん登録は、病院で診断、治療された全ての患者さんのがんについての情報を、診療科を問わず病院全体で集め、その病院のがん診療がどのように行われているかを明らかにする調査です。がん検診で見つかった患者さんが多いのか、それともほかの病気でかかっているうちに発見された患者さんが多いのかなど受診までの経過の違いや、がんの種類別の違い、あるいは手術の数が多いか少ないかなど病院のがん診療の特徴を把握するために定期的に行われています。

登録対象 入院外来を問わず、下記の期間中、新たに受診・診断・治療の対象となった腫瘍

期 間 2014年(平成26年)1月～12月

登録件数 全登録数642件のうち、症例区分8その他を除く ※集計対象件数：626件

※国立がん研究センターがん対策情報センターが実施する全国集計において症例区分8その他を除外したデータを集計対象と定義しています。症例区分8とは、自施設において診断もしくは治療が行われていない症例が分類され、代表的なものにセカンドオピニオンがあります。

◆がん登録件数は医療機関で診断、確認された症例数であり、がん発生数罹患数とは異なります。同一症例が他の医療機関でも重複登録される場合があることから、場合によっては両者に大きな差が生じることがあります。

◆個人情報につきましては、法令および厚生労働省のガイドラインに基づき適正に取り扱い、保護・管理を行っています。

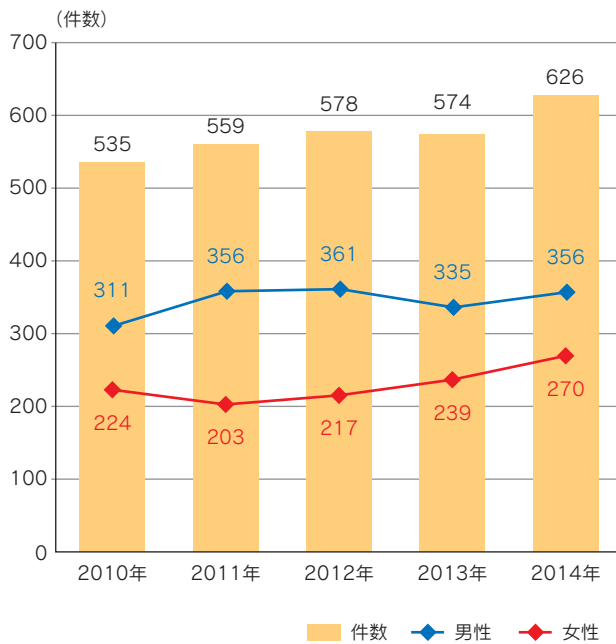
● 部位別登録数

2014年症例の部位別登録数上位5部位は、大腸(94)、肺(84)、胃(73)、前立腺(71)、乳房(58)です。

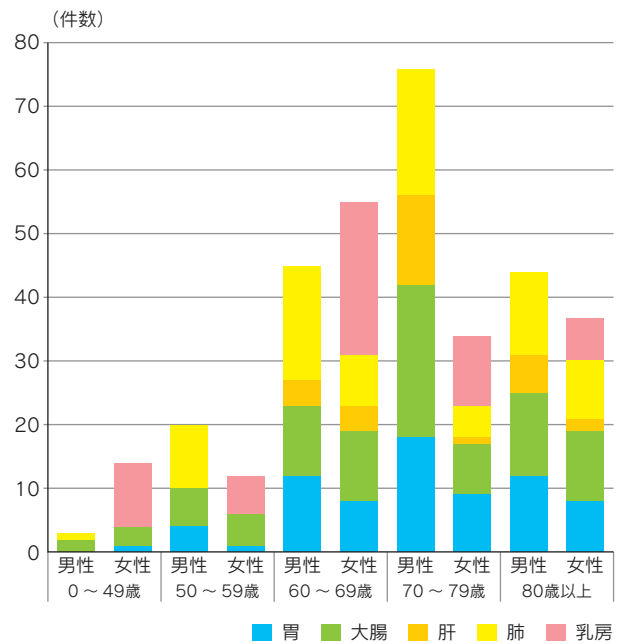
診断年	2010年		2011年		2012年		2013年		2014年	
	登録数	%	登録数	%	登録数	%	登録数	%	登録数	%
口腔・咽頭	5	0.9%	5	0.9%	6	1.0%	11	1.9%	7	1.1%
食道	8	1.5%	10	1.8%	11	1.9%	9	1.6%	13	2.1%
胃	72	13.5%	77	13.8%	74	12.8%	64	11.1%	73	11.7%
結腸	59	11.0%	61	10.9%	47	8.1%	48	8.4%	60	9.6%
直腸	27	5.0%	27	4.8%	22	3.8%	20	3.5%	34	5.4%
肝臓	35	6.5%	32	5.7%	41	7.1%	29	5.1%	31	5.0%
胆嚢・胆管	15	2.8%	10	1.8%	13	2.2%	16	2.8%	15	2.4%
膵臓	20	3.7%	18	3.2%	19	3.3%	16	2.8%	18	2.9%
喉頭	6	1.1%	5	0.9%	—	—	6	1.0%	—	—
肺	78	14.6%	85	15.2%	88	15.2%	69	12.0%	84	13.4%
皮膚	20	3.7%	16	2.9%	17	2.9%	28	4.9%	26	4.2%
乳房	55	10.3%	55	9.8%	49	8.5%	62	10.8%	58	9.3%
子宮頸部	—	—	—	—	—	—	20	3.5%	31	5.0%
子宮体部	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	12	2.1%	9	1.4%
卵巣	0	0.0%	—	—	0	0.0%	—	—	10	1.6%
前立腺	44	8.2%	54	9.7%	46	8.0%	53	9.2%	71	11.3%
膀胱	21	3.9%	24	4.3%	30	5.2%	21	3.7%	21	3.4%
腎・尿路	—	0.7%	19	3.4%	19	3.3%	14	2.4%	22	3.5%
脳・神経	8	1.5%	7	1.3%	13	2.2%	13	2.3%	0	0.0%
甲状腺	20	3.7%	18	3.2%	19	3.3%	19	3.3%	12	1.9%
悪性リンパ腫	18	3.4%	13	2.3%	25	4.3%	16	2.8%	13	2.1%
白血病	5	0.9%	5	0.9%	6	1.0%	—	—	—	—

※5件未満は非表示—としています

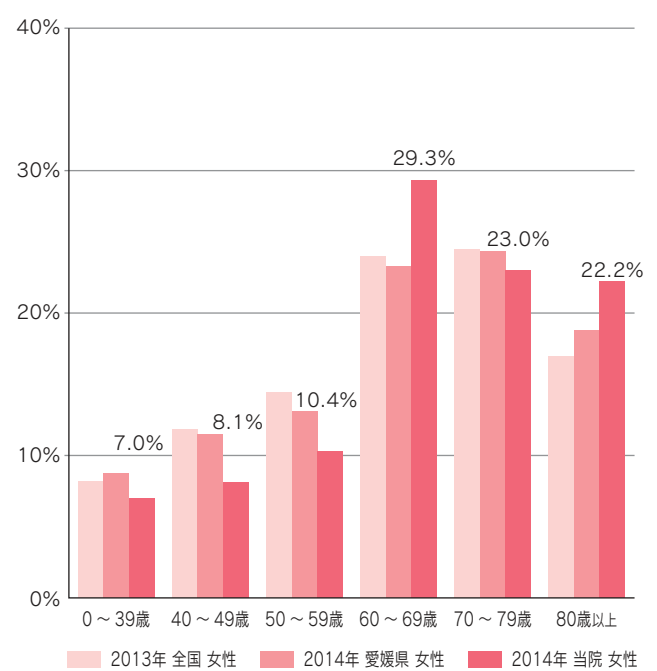
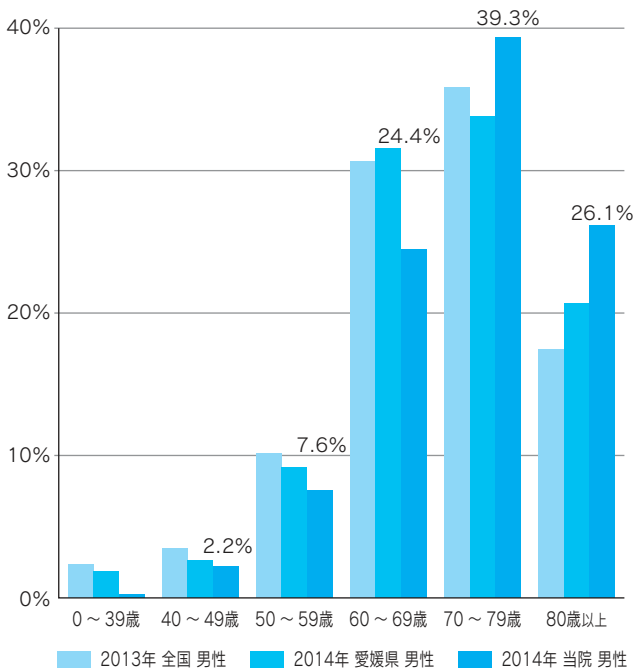
●登録数の年次推移



●2014年症例 5大がん 年齢別 登録数



●男女別 年齢6階級別 登録割合(当院・愛媛県・全国)



60歳以降高齢になるほどがんにかかる可能性は高くなりますが、乳がんや子宮がんなど、女性は若いうちから発症する可能性もあり、当院や愛媛県においてもその傾向は同様であります。当院では80歳以上の高齢者の登録割合は、全国や愛媛県に比べ、さらに高くなっています。

全体の登録件数は、やや増加傾向で推移しています。女性では、2013年7月より常勤医による婦人科の診療を再開したこともあり、子宮がん、卵巣がんの件数が増えています。男性では前立腺がんが増加しており、腹腔鏡下手術や分子標的薬の導入によるものと思われます。診断、治療法は日々変化していますが、東予地域の患者さんによりよい診療を提供したいとの思いで、各診療科で日々更新を行っております。新病院完成後はPET-CTが導入されるため、早期診断や精密検査において力を発揮するものと思われます。患者さんのご要望にそえるように努めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

(がんセンター長 小林一泰)